歌人・濱梨花枝（はまりかえ）

～幻の墳（つか）のほとりで～

北埼玉郡埼玉村（さきたまむら）（現・行田市）の名門・湯本家に生まれた歌人・濱梨花枝（はまりかえ）（一九一二～一九九八、本名・榎本美佐夫）は、十九歳で久喜町（現・久喜市）の旧家・榎本家に嫁ぎました。

旧家の嫁という重圧からの救いを短歌に求めた濱は、二十七歳で与謝野晶子に入門します。しかし、入門翌日に晶子が脳溢血で倒れたことにより、はからずも濱は与謝野晶子最後の弟子となりました。

四十八歳の時に刊行した第一歌集『風紋』（一九六〇）をきっかけに、濱は中央歌壇での活躍を嘱望されますが、後に初代久喜市長となる夫・榎本善兵衛を支えて家を守るため、歌人としての活動を断念します。

しかし、友人らの懇願に応え、昭和四十一年（一九六六）に青遠短歌会を主宰し、歌誌『青遠』を創刊しました。季刊誌の発行に加え、定例歌会や吟行会など精力的な活動を行い、濱は三十年以上にわたり多くの後進を育成しました。

多忙を極めた濱は、歌に行き詰まると故郷の行田を訪ね、古墳のほとりを散策しました。幼い頃から万葉遺跡の小埼（おさき）沼（ぬま）や古墳を眺めながら育った濱の歌には、古代への幻想や郷土への憧憬をテーマにしたものが多くあります。

この企画展では、歌稿や創作ノートなどの直筆資料や、雑誌（歌集未収録の短歌を掲載）などの貴重な資料を通して、家の問題を抱えながらも、短歌と向き合い続けた濱の業績を紹介いたします。

1

関連事業は **参加費無料**

関連事業 1　10/18㊏ 14:00-15:30　上映＆トークイベント

濱梨花枝の半生を紹介した番組の上映と、長年共に過ごしてきた家族の目から見た濱の姿についてお話しいただきます。

会場／久喜総合文化会館　小ホール（久喜市下早見140）
内容／上映「わたしの生き方ー埼玉の女性ー」（約20分）
　　トーク「家族から見た濱梨花枝」（約60分）
定員／300名（事前申込制・電話受付048-789-1515・先着順）
出演／榎本 道子 氏（濱梨花枝長男の妻）
　　榎本 恭子 氏（濱梨花枝次男の妻）
進行／堀内 謙一 氏（認証アーキビスト）
後援／久喜市教育委員会

2

3

関連事業 2　10/25㊏ 13:45-15:30　文学散歩「濱梨花枝の歌と古墳をめぐる」

古墳の歴史や特徴についてのガイドを受けながら濱梨花枝が詠んだ古墳や故郷にまつわる歌を鑑賞します。

会場／さきたま古墳公園（行田市埼玉4834）
定員／30名（往復はがきによる抽選・10月15日㊌必着）
案内／文学館職員・県立さきたま史跡の博物館学芸員
協力／埼玉県立さきたま史跡の博物館

4

文学図書室にて濱梨花枝や県ゆかりの歌人に関する本・雑誌をご覧いただけます。

関連事業 3　11/15㊏ 14:00-15:30　講演会「知られざる濱梨花枝の素顔」

濱梨花枝に師事した歌人の飛高 敬氏に、濱との思い出や、『青遠』などについてご講演いただきます。

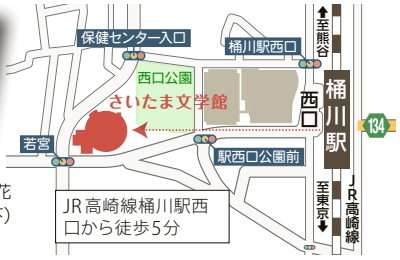
会場／さいたま文学館　文学ホール
定員／200名（事前申込制・電話受付048-789-1515・先着順）
講師／飛高 敬 氏（日本歌人クラブ名誉会員、埼玉歌壇元選者、『曠野』主宰）

申込方法

関連事業 1・3は、さいたま文学館までお電話（048-789-1515）にて申込受付（先着順）。関連事業 2は10月15日㊌必着で、往復はがきにて申込（応募者多数の場合は抽選）。往復はがきの〔往信ウラ〕に①氏名（ふりがな）・②住所・③電話番号を、〔返信オモテ〕にご自身の住所・氏名を明記の上、〒363-0022 桶川市若宮1-5-9　さいたま文学館　企画展文学散歩係宛にお送りください。（1通につき1名まで）

さいたま文学館
Saitama Museum of Literature

会期中、プリマカフェにて濱梨花枝展限定メニューを提供いたします。



1.歌誌『青遠』（創刊号、11号は土門拳撮影）　2.自筆色紙「柔軟に粘りある波の繰り返しめぐらせていぬ永遠の今」　3.『歌集 青遠（上）幻の墳』濱梨花枝（著）、真野満（イラスト）、伊藤鑛治（デザイン）、KADOKAWA、1994、『歌集 青遠（中）花』濱梨花枝（著）、KADOKAWA、1996、『歌集 青遠（下）黒鳥のこゑ』濱梨花枝（著）、KADOKAWA、1997　4.『歌集 風紋』濱梨花枝（著）、白玉書房、1960